

東北教区報 2022年1月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

クリスマスは今では世界中の人がお祝いをするお祭りです。しかし、世界での最初のクリスマスは極めて限定的でした。ある時代、ある特定の場所での小さな出来事でした。

ある時代とはいつか。それは「キリニウスがシリヤ州の総督であったあつた時」(ルカ2:2)です。シリヤ州とはガリラヤ地方よりサマリヤ・ユダヤまでの地域で、そこにはガリラヤ湖、ヨルダン川、死海があります。そしてイエス様が保育になつたナザレ、お生まれになつたベツレヘム、そしてイエス様の地上での生涯の目的地であつたエルサレムもこのシリヤ州です。その地域を治めていたのがキリニウスという総督でした。さらにそのシリヤはローマ帝国の支配下にあり、その時のローマ皇帝がアウグストゥスだったのでした。

そして、ある場所とはどこ

クリスマス メッセージ

個の物語から普遍の物語へ

～クリスマスの出来事～

司祭 ステパノ 越山 哲也

か。それは「ユダヤのベツレヘムというダビデの町」(ルカ2:4)です。この状況の中にイエス様はお生まれになつたのです。

私たちはアウグストゥス、キリニウスという名前をさほど心に留めることではないのではない



させること、すべての人の平和の実現にあり、そのご計画はほんやりとしているのではなく、極めて具体的なのです。イエス様の誕生も昔々あるところにイエス様がお生まれになりましたというのではなく、具体的な時代、具体的な場所が聖書に示されているのはそのためです。

個の物語がすべての人の物語(普遍的な物語)へとなっていくことを私たちは聖書を通して知ることが出来ます。きわめて個人的な出来事が、いつしか多くの人の出来事になつていく。たつた一人で始めたことが少しずつ紡がれて大きくなつていくことを私たちは経験したり、聞いたりしていると思います。

「今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになつた。この方こそメシアである。」(ルカ2:11)極めて具体的な喜びの知らせだと思いませんか。

「今日」「ダビデの町」そし

て「あなたがたのために」救い主がお生まれになつたのです。

最初にも申しましたが、クリスマスの出来事は小さな小さな出来事でした。貧しい羊飼いと告げられた出来事が今や世界中の人たちが知る出来事になつていったのです。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ25:40)とあります。

私たちが出来ることはそんなに多くありません。日々それぞれが生きている現場で出会う人、経験する出来事と向き合つて心を込めて一生懸命生きていく。それはもしかしたら誰も知らないことが多いのかもしれない。それが時に重荷や虚しさになることもあると思います。でも安心してくださいます。その心を込めて一生懸命生きた小さな行為はイエス様にしてくれたことなのです。私たち一人一人の物語を神様は祝福してくださっていることを信じたいと思います。クリスマスおめでとうございます。

(盛岡聖公会牧師)

日本聖公会東北教区

第105 (定期) 教区会開催

11月23日(火)・盛岡

日本聖公会東北教区第105 (定期) 教区会が11月23日

(火)に盛岡聖公会礼拝堂並びにアートホテル盛岡で開催されました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けての開催となりましたが、参加代議員や書記局ホテルのスタッフの方々の協力で、しっかりとした検温・消毒体制を実現し、実施することができました。

その結果予定していた議事を全て行うことができ、時間通り午後5時に終了することができました。

報告においては、例年以上にタイトなタイムスケジュールだったため、各自持ち時間1分を目安とされておりましたが、各部門の方々の協力により、これまで以上にコンパクトなものとするこ



ことができました。

また議案においては、教区会細則の改正や、業務組織・分掌規程の改正、給与規程の改正等の規則規程に関するものや、大館聖パウロ教会・幼稚園舎改築に関する議案が提出され可決されました。また昨年取り下げられていた慶弔規程に関する議案も可決され、

最後に教区一般会計の決算と予算に関する議案を可決し、全ての議案を滞りなく審議することができました。

さらに今教区会では、1日という日程ではありませんが、午前最後の50分ほどの「宣教協働区、伝道教区制」に関する研修を執り行いました。間近に迫った教区主教選挙を実施するかもしれないのか、教区としてどのような道を進むのかを、皆で考えることの重要性を改めて伝えられた研修となりました。

最後に今回の教区会では例年に無い代議員の欠席があった事実を報告します。現在の新型コロナウイルス感染症の状況、各個教会・個人の諸事情、様々な原因があるように思いますが、次回の教区会においては、代議員が皆しっかりと教区会に参加し、その責務を全う出来るようになればと思います。

またこの他の詳細については、これから各教会に配付されます決議録をご参照ください。

(編集部)

選挙結果

総会代議員

司祭 長谷川清純

司祭 越山哲也

赤坂有司 (仙台基督教会)

畠山秀文 (弘前昇天教会)

常置委員

赤坂有司 (長・仙台基督教会)

司祭 長谷川清純

司祭 八木正言

司祭 渡部拓 (書記)

畠山秀文 (弘前昇天教会)

坂水かよ (盛岡聖公会)

主教告示

主教 ヨハネ 吉田 雅人

本日、ここに東北教区第105 (定期) 教区会を開催できますことを、主なる神様に感謝いたします。またこの教区会のためにお集まりくださいました、聖職議員・信徒の皆様にも感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の係で、今年も昨年に引き続き盛岡聖公会と、アートホテル盛岡を会場に、1日で行うことになりました。ことに今回の教区会では諸報告・議案のほかには常置委員と総会代議員の2つの選挙、そして東北教区の将来を考えるための研修と盛りだくさんな内容です。非常に限られた時間ですが、この教区会が、聖霊なる神様のお導きのもと、共に祈り、互いに聞き合い、意見を分かち合うことを通して、これからの東北教区の一歩と平安・進歩のための、豊かな恵みの時となりますことを願っています。

新型コロナウイルスと

教会の活動について

新型コロナウイルスの感染は、4月から5月にかけて第4波が、8月には第5波が全国を襲いました。東北地方は比較的影響が少なかった方ではありますが、4月16日には「主日礼拝ならびに宣教活動のための指針 No. 8」をお送りして、教区の皆様方と共に教会内でのクラスター発生を防ぐことができたのではないかと思います。東北地方でも8月下旬以降は週単位で



また礼拝を再開できても、陪餐については聖公会の伝統であるパンとぶどう酒の2種陪餐ではなく、ご聖体だけの1種陪餐が続きました。これに関しましては、降臨節第1主日からは過渡的な対応として、当面の間、聖杯から直接いただくのではなく、司式聖職も会衆も「インテイクション」という方法で、キリストの御体と御血にあずかっていただければと思います。

教区の様々な活動は、今年も顔と顔を合わせて行うことはなかなか難しく、その点は大変残念でした。しかしその代わりにインターネットを用いた会議等に慣れてきたという点もありますので、今後は対面式とネットを用いた集まりとを併用し、その利点と欠点とを踏まえて、コロナ以前にはなかった、様々な取り組みを模索していただければと思います。

感染者が減り始め、先週は1桁までになりました。このまま終息してくればよいのですが、識者は来年1月以降に第6波がくるかもしれないと警告していますので、引き続き注意して生活していただきたいと思っています。

ただ、昨年に続いて2度も、共に集まって礼拝をお献げすることができず、各教会ではインターネット礼拝や説教の配布など、様々な工夫をしてくださったことと思います。

人事および教区の動きについて

次に教役者の人事についてご報告いたします。4月1日付けで林国秀司祭には郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師、小名浜聖テモテ教会管理、若松諸聖徒教会協働として、越山哲也司祭には盛岡聖公会牧師、八戸聖ルカ教会・大館聖パウロ教会・釜石神愛教会の管理として赴任していただき、8月20日付けで室根聖ナタエル教会管理もお願いしています。また4月1日付けでテモテ遠藤洋介司祭が神戸教区から出向してくださり、八戸聖ルカ教会副牧師、盛岡聖公会と大館聖パウロ教会の協働として勤務しておられます。そしてもうお一人、中部教区退職のパウロ松本正俊司祭が、嘱託として小名浜聖テモテ教会に定住してご奉仕くださっています。

先ほどご一緒にお祈りいたしましたのが、オーガスチン戸枝正樹聖職候補生が4月23日に神様のもとに召されました。大館の教会で、お体の調子が悪い中、最後の最後までご奉

仕くださいました。本当に感謝でした。

1984年から37年間にわたり、当教区でお働きくださったピリポ越山健蔵司祭が、ご自身のお申し出により今年の9月末で嘱託の任を終え、北海道深川市に転居されました。ご本人はこの場にはおられません、長きにわたるお働きに対し、拍手をもって感謝の意を表したいと思います。また礼拝協力を続けてくださった佐藤忠男主教様、加藤博道主教様にも深く感謝申し上げます。

さて、今年5月22日に教区内6会場をオンラインで結んで開催された、第104(臨時)教区会で、ヴァイアル山荘境内地仕様変更を承認する件が可決され、6月30日に起工式、10月23日に落成式が行われました。とても素晴らしい施設になりましたので、来年から皆様方に大いに利用していただきたいと思っています。

また10月には東日本大震災被災者支援プロジェクトから『東日本大震災震災証言集』が、奉仕職養成グループ

から『み言葉の礼拝』を献げる礼拝奉仕者と会衆のための手引き』が発行されました。そして12月中旬には教区成立100周年記念誌編纂プロジェクトから『東北教区成立100年の歩み』が発行される予定です。どうぞお手にとってお読みいただければ幸いです。

今教区会には、慶弔議案を除いて10の議案が提出されておりますが、その中で1945年に宣教活動が始まった室根聖ナタエル教会が、残念ながら教会としての働きを維持することが困難になり、東北教区と法人合併をすることとなりました。今後は教区の研修等の施設として用いられていくことを願っています。また、学校法人聖公会聖パウロ学園大館幼稚園舎改築に係る議案も出されています。こちらは教区・教会と幼稚園が手を取り合ってキリストの福音を伝えていくためのものです。どうぞご審議のほど、よろしく願います。

私たちの教区の

これからについて

昨年の教区会でも申し上げましたが、日本聖公会は宣教体制再編に向けて、昨年の総会で「宣教協働区と伝道教区制」を採用するという、法規の大きな改正を行いました。その結果、日本聖公会を3つの宣教協働区に分け、各々の宣教協働区で協働すること、また教区は教区会の決議と総会の承認によって教区主教を置かない伝道教区に移行することが可能になりました。

東北教区では、この大きな改正について信徒の皆さんのご理解をいただくために、5月22日に開催された臨時教区会で研修の時から、またそれと同じ資料を用いて、各教会でも研修の時を持っていたきました。そして11月3日に行われた、東北教区宣教130周年記念礼拝に引き続き、私たちの目の前にある課題について研修の時を持ち、今日も



そのような計画をしています。と言いますのは、11月3日の研修の時にも言われておりましたように、私自身が2023年3月末をもって定年退職を迎えるため、来年の4月以降に次期教区主教選挙を行うのか、それとも伝道教区を目指すのかという決断をしなければなりません。しかもその決断は誰かがするのでなく、できる限り教区の皆さんの話し合いと理解の中で、一定の合意を得ていく必要があると思っています。

この大きな課題につきましては、本教区会の中で後ほど問題提起をしていただき、また今後も様々な場面で皆さんと協議していきたいと思っています。そこで今、私が皆さんに申し上げたいことは、最終的に私たちが次期主教選挙を選択するか、それとも伝道教区になることを選択するかに関わらず、私たちが継続的に取り組んでいかねばならない課題についてであります。

それは、2019年の第102(定期)教区会で決議された、日本聖公会東北教区の「宣教方針」である、「ささげる」と「開く」ことを、私たち一人ひとりの課題として実践していくことにほかなりません。この「ささげる」と「開く」ことには様々な側面がありますが、今回は二つのことを皆さんに申し上げたいと思います。

一つは、皆さんや皆さんの教会におられる信徒の方々に、ご自分を開いて、持つておられる賜物を神様と隣り人のために、教会と教区のためにお献げいただきたいのです。これに教区には、様々な委員会や執行機関のグループがあります。そのリーダーやメンバーのうち、何人かの方は幾つもの役割を重複して担ってくださっています。もちろん人には得手不得手があることは承知していますが、より多くの人々がそれらの働きを分かち合って、担っていただきたいのです。どうぞ、皆さんのお知恵、お力、経験、時間などをお献げくださいますように。

もう一つは、現在の東北教区には21の教会と2つの伝道所があり、それを8人の聖職に宣教牧会していただいています。つまり一人の聖職が、定住しておられる教会以外に、1つか2つの教会を兼務しておられ、かつ複数の幼稚園のチャプレンも担ってくださっています。そんなことで教役者の皆さま方は、椅子を温める暇もないほど、100km単位で各地を飛び回って働いてくださっています。そのようなことを思います時、どうぞ、皆様方の教会の中から5年後、10年後の日本聖公会、そして東北教区を担ってくださる聖職・奉仕職に召される方が、一人でも多く生まれますよう、お祈りとともに働きかけをお願いしたいのです。

30代、40代の若い方はもちろんのこと、60歳になられてからでも聖職志願をして、3年間神学校で学ばれ、卒業して司祭職に叙任された方を何人も見ております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、最後になりましたが、一般財団法人白石庵敬神会には、主として東北教区の公益的な事業である「幼児教育事業」に対して多大なる援助とお支えをいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。また東北教区婦人会の働き、東北教区にとっては宣教の協働者である東北教区保育連盟とその加盟園の働きにも感謝申し上げます。

今日一日、限られた時間ではありますが、私たちが神様とこの世、隣り人に仕えていく器とされますよう、議論を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上

研修会「奉仕のススめ」の第2回を、今年度出版させていただきました「『み言葉の礼拝』を献げる 礼拝奉仕者と会衆のための手引き」をテキストに、著者である吉田主教を講師に開催しました。ほとんどの教会でこの礼拝が行

奉仕職養成グループ 「奉仕のススめ」part2 開催

われるようになり、「ここはどうしたら良いのだろう」「ほかの教会ではどうしているのだろう」という思いが出てきている中で時を得た集まりではなかったかと感じています。

「奉仕のススめ」はこれからもうウェブでの開催を中心に継続していく予定です。皆様からのご提案も取り入れながら、研修というよりも分かち合いの場を作っていきたいと考えています。どうぞご参加ください。

(グループリーダー

司祭 涌井 康福)

参加者からの声

「み言葉の礼拝」の講義を受講して
青森聖アンデレ教会
ダビデ 石場 正樹

「奉仕のススめpart2」は去る11月20日(土)午後2時からオンライン開催されました。講師は吉田雅人教区主教。120分の講義でした。テキストは10月に発刊されたばかりの「『み言葉の礼拝』を献げる礼拝奉仕者と会衆のための手引き」という礼拝学の詰まった読みやすく分かりやすいもので、執筆者は今回の講師その方です。講義はテキストに沿って行われ、最終ページまで休憩なくフルにご教授くださいました。感謝いたします。今回の受講者は14名と意外に少ないのが気になりました。誰もが経験している「み言葉の礼拝」ですが、式文を見ればお分かりのとおり、小さい文字で書かれている部分、演劇台本のト書きに該当する部分、これをルブリックと言います。皆さん覚えてください。私はこのルブリックを読むのが大好きで、この部

分を都合のいいように解釈しておりましたがそれではいけません。テキストを読まれると分かります。またテキストには書かれていませんが、講師は代祷のところで週報に記

載されている文言をそのまま読み上げるのではなく、各項目の(ことに)の後に代祷内容を挿入してもらいたいことと、「み言葉の礼拝」には選択肢が何通りもありますが、一つに固定した式文を作るのもどうかと思いますと仰っておられました。祈祷書改訂作業中の聖餐式には、聖別祷は五つ入れ選択肢を増やしたいと考えているそうです。因みに長谷川司祭は、代祷で個人名の読み間違いのないようにカナをふつてくれています。当教会では現在サーバー5名、オルガニスト4名、オルタギルド・アッシャー10名程度おり毎主日交代で奉仕しております。このテキストは会衆のための手引きでもあるので信徒全員と、毎日園児と共に祈りを捧げている聖公会栄光学園の幼稚園教諭30名にも差し上げて勉強してもらおうと思っております。7名のス

タッフの皆さんありがとうございました。

私にできることは何?

盛岡聖公会
クリスティーナ 曾根 美砂

2021年11月20日、私は、奉仕職養成グループが主催した「奉仕のススめpart2」に参加しました。今回は、せみなりお言葉シリーズの第2弾として発刊した「『み言葉の礼拝』を献げる 礼拝奉仕者と会衆のための手引き」を基に、著者である吉田雅人主教様にご解説をいただくものでした。実は、盛岡聖公会では、最近までみ言葉の礼拝を2006年の試用版を用いて礼拝しており、この手引きの発刊をきっかけとして礼拝が始まったところでした。現行の式文は、新たな選択肢が増えて、どこか柔らかくなったという印象を持ちました。教会委員会では、ちょうどみ言葉の礼拝の司式奉仕者を広げていく必要性が話題となっていた時でしたので、まさに、この「奉仕のススめpart2」は私にとってタイムリーな研修会だったのです。

吉田主教様は、み言葉の礼拝が始まったきっかけから、式文作成当時のエピソードを交えて、み言葉の礼拝が単に聖餐式の代替えではないということや、私たち信徒が聖餐式聖書日課のみ言葉を通して喜びの中に主の日を覚え、記念することができ「宣教的な礼拝」であることを教えてくださいました。また、司式者等の心得においては、祈りの共同体の中で一人ひとりが大切にされる礼拝であることを心掛けるよう、まだ司式をしたことがない私にもわかりやすくお話しくださいました。以前の式文の見出しにはなかった「ともに」という表記は、その表れであることを感じながら拝聴しました。

一般の信徒にとって司式のご奉仕をすることは、大きな覚悟を伴います。でも、神様の御助けをいただきながら準備し、この礼拝がみんなで作りに上げていく礼拝なのであれば、私にもできるかもしれない。そんな私のことも神様はきっと祝福してくださるに違いないと信じ、これからの信仰生活を送ろうと思いました。



聖テモテ幼稚園 園長

アイリーン 齋藤 明美

聖テモテ幼稚園は、福島県の最南端の沿岸部に位置し、1年を通して温暖な気候で夏は涼しく冬は雪はあまり降らないので住みやすい地域です。幼稚園の浜辺には、海洋学習施設「アクアマリンふくしま」があります。そこでは、海の生き物に触れたり見学ができるので、当園ではその施設を園外保育に利用しています。

また、園内には棕櫚の木や桜、柿、びわ、ぶどうの木があり、季節になるとそれぞれ花を咲かせ実をつけます。子どもたちは、四季を通して変化する自然の恵みの中で保育をしています。幼稚園は、子

どもたちの明るいあいさつで1日が始まります。登園後、お友だちと元氣いっぱい遊び、朝のお祈りの時間になるとピアノの音色で遊びの時間からお祈りの時間に変わったことをお知らせします。

子どもたちは自らお片付けをし、お片付けが苦手な子がいると一緒に手伝ってくれます。まだお部屋に戻っていないお友だちがいると、いないことを教えてくれます。みんなが揃うまで静かに待ちます。お祈りの時間は、一人ひとりが手を合わせ「主の祈り」を唱え、聖歌を歌い、聖話を聞くときはいつも神さまと一緒にいてくださることを身近に感じられるときです。

子どもたちはいろいろな体験を通して成長していきます。園児の一人が、園庭で一匹のコオロギが死んでしまっているのを見つけました。そこに子どもたちが集まって「かわいそう」と話していました。花壇にむかった子どもたちは、小さな穴を掘り、コオロギをそっと埋めてあげていました。落ちていた小枝に気づいた子

どもは、小枝をセロハンテープでとめて十字架を作りました。みんなで手を合わせてお祈りをする子どもたち。小さな命に触れ、命を大切に歩み成長している姿が感じられました。

保育の中には、見落としてしまいそうな瞬間がいくつもあります。私たちが気づかないときでも、神さまはいつも傍にいて小さい出来事やその瞬間を見逃すことなく見守ってくださっていること、豊かなお恵みの中で子どもたちと一緒に過ごせることに感謝します。



東北教区保育連盟 秋の研修会報告 ～キリスト教保育ってなに?～ 東北教区保育連盟会長 アイリーン 坂水 かよ

研修会の講師に、前・若松聖愛幼稚園長八木陽子先生をお迎えして「キリスト教保育ってなに?」というテーマで講演をしていただきました。

東日本大震災が発生したあの日、あの時、園外保育に出

ていた子どもたちが、急遽避難した広い駐車場の真ん中で、おもわず出てきた「神様の歌をうたおう」の言葉、今でも涙せずには語れないと話してくださったお話が心に深く響きました。日々の保育の中で培われていく心、まさに「チーム聖愛幼稚園」での豊かな園生活を感じることができた一コマでした。

八木陽子先生からは、今回の「キリスト教保育ってなに?」のテーマに「私の」として視点でお話していただきましたが、それぞれの「私の」キリスト教保育って?を語り合えたらいいなと思います。気がねなくおしゃべりできる関係、私の「保育を認め合う関係」、そして信頼して相談し助け合える「頼れる仲間関係」を築いていくことが、これからの保育連盟の役割でもあると強く感じた研修会でした。

参加者108名の方々と学びを共有し、実りある研修会になったことを、講師の八木陽子先生に深く感謝いたします。

今回の東北教区教育・保育グループ保育部門との共同開催を「開く」ことの第一歩とし、これから協働していきたいと願っています。

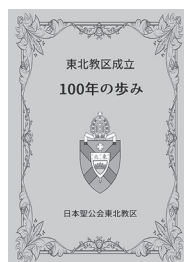
「東北教区成立100年の歩み」

発行：教区成立100周年 記念誌編集プロジェクト

今冬教区成立100周年を記念した「東北教区成立100年の歩み」が発行されました。この記念誌は「教区のあゆみ」「教会のあゆみ」として「幼稚園のあゆみ」という3つの柱で構成されています。そして豊富な写真や年表等と合わせて、教会だけに留まらない、教区に連なる幼稚園を含めた、それぞれに、ドラマ

のある100年のあゆみが掲載されています。そこにはそれぞれの教会や幼稚園が、この100年という時の中で体験した「神の国」を目指す宣教の道が、時に生々しく、そして活き活きと記されています。あるいはそれは、同じ教区であっても、あるいは実際にそこにおいても、知り得なかったそれぞれの教区・教会・幼稚園の信仰の姿を見せてくれる

ことと思いますし、それは、この記念誌を読む人の励みにもなっていくのだらうと思います。この記念誌の発行に当たって尽力された執筆者と、編集者たちに感謝しつつ、どうぞこの記念誌を手にとられ、じっくりとそれぞれの100年を味わっていただければと思います。
(編集部)



書籍紹介

「東日本大震災―震災証言集」

発行：東日本大震災被災者支援プロジェクト

2011年3月11日、三陸沖海底で起きたたった一つの出来事は、たくさんの尊い命とかけがえのない自然を奪い、私たちの人生を変えました。

「あけぼの」でも、特に大きな被害を受けた方、辛い経験をされた方からご執筆いただきました。この度発行された「震災証言集」には、支援活動で出会った方々のうち、様々な

思いを抱えながらも執筆してくださった33人の、貴い、懸命に「生きてきた証」が綴られています。身を削るような思いで、葛藤しながら書かれたことは想像に難くありません。書くことが出来なかった方もいらつしやるでしょう。今回収録が叶わなかったたくさんの「証」に思いを馳せます。また、あの日を経験された方、読まれる皆さん、誰にも、そ

れぞれの心にしたためた「34番目の原稿」があるのだと思います。一人でも多くの方にお読みいただき、一つひとつの言葉に込められた思いが届くことを願っています。ご執筆くださった方、そしてこの本の発行を決定し形にしてくださったプロジェクト・メンバーに感謝いたします。
(編集部)



常置委員会報告

(第15回・11月12日)

◆主教報告

動静報告及び今後の予定について。教区内外の対応事項について報告。

◆常置委員長報告

東日本大震災余震被害による修繕費等への援助金について、地震保険と公的援助金で賄える金額を差し引いた全額を管区へ援助申請し、10月25日に開催の常議員会での議を経て承認の旨報告。

◆主教諮問事項

次期教区会期の主教座聖堂信徒参事ならびに会計監査委員について。「主日礼拝ならびに教区宣教活動のための指針(N・8)」の加筆修正点について、①当面の間インテンクションによることを限定に二種陪餐に戻すこと、②茶話会・愛餐会は引き続き当面の間休止とする。

◆主事会議報告

各主事取扱事項報告ならびに教区財務状況報告。

◆協議事項

(1) 第105(定期)教区会関連事項について。常置委員会への質問事項について対応を協議。

(2) 宣教協働区についての共通理解と主教選挙実施有無についての議論の進め方について。今後のスケジューリングの確認、現況に鑑み、教区会での研修実施の確認、これらに関わる教区の予定等について方向性を確認。

常置委員会報告

(第1回・11月23日)

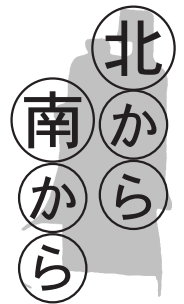
◆役割分掌について

(1) 常置委員長の互選。主教が仮議長となり、第105(定期)教区会で選出された常置委員で委員長を互選した結果、赤坂有司委員を選出、全員一致で決定した。書記の選出。常置委員長となった赤坂有司委員が議長となり書記を選出した結果、渡部拓司祭を書記に、八木正言司祭を補助書記に選出、全員一致で決定した。

永遠の平安

アンナ 横田 八重

(7月27日・秋田)



八戸聖ルカ教会

10月17日、聖ルカ祭記念礼拝の後、吉田雅人主教司式、越山哲也、遠藤洋介両司祭同席の元、「八戸聖ルカ教会共同墓地」の聖別を行っていただきました。八戸キリスト教霊園委員会設立から36年、信徒の方々からの献金により念願であった当教会の「共同墓地」が与えられたことは大きな喜びで皆さまに感謝します。市営東霊園は東に太平洋が一望できる高台にあり、また桜の名所で市民に親しまれている場所です。主に感謝します。

盛岡聖公会

盛岡聖公会では、2021年7月より月報が発刊されて、その月の教会の動向や信徒の記念日を覚えて祈ることができるようになりました。そしていつでも教会を傍に感じられるようにしようと、月報と教区報「あけぼの」を合わせて遠くにおられる方々にもお

届けられています。毎月の巻頭言や礼拝の案内はホームページにも記載され、教会が誰とでも親しく繋がれるようにと願って活動しています。

聖ペテロ伝道所

10月の初めに越山健蔵司祭が北海道に引越されて、伝道所はまた寂しくなりました。そんな折、京都のウイリアムス神学館から神学生の方々が東北研修のために来仙しました。教職員と合わせて8名が宿泊所としてペテロ伝道所を利用しました。季節柄、風邪など引かぬかと心配したのですが、今年の仙台は暖かく、秋が長いようでした。志高い神学生の方々に希望をいただき感謝です。

能代キリスト教会

長年風雪で傷んでいた教会建物外壁を地域の方々が心配し、2020年は道路側外壁を、2021年は鐘楼塔入口の壁やドアの塗装をしてくれました。このため教会の男性軍はこれに触発され、足場を組む者、歩道の照明を担当する者、地域の協力者（小林さ

ら）からアドバイスを受けながらペンキ塗りに挑戦する者が現れ、遂に10月末九割方を終了。住民からは明るくなったと喜ばれています。

米沢聖ヨハネ教会

聖堂聖別91年の時を経て、「祈り続ける教会」として小さな歩みを続けています。9月12日(日)越山健蔵司祭による聖餐式、11月14日(日)主教巡回日には逝去者記念聖餐式に与ることができました。渡部拓司祭が読み上げる信徒や家族には一世紀前のお名前もありました。礼拝後のハンドベル演奏が心を和ませてくれました。降臨節に入り、白菊や薄紫の菊が、雪の中、主のご降誕を待っています。

磯山聖ヨハネ教会

神様のご計画
私は小学校の頃から聖ヨハネ教会の礼拝に通っていましたが、大学進学と同時に上京してからは疎遠になっていました。今年から18年ぶりに地元でまた暮らし始め、礼拝にも通うようになりました。18年の間に教会の建物は新しく

なり、私の知る姿ではなくなっていました。しかしそこで行われている礼拝の空気は、子どものころから変わって変わらず、懐かしさすら感じています。感謝します。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

感謝が寄せられた2021年の11月でした。
11月7日、釜石市は「東日本大震災復興支援感謝のつどい」をオンライン開催し、支援各団体に感謝状を贈呈しました。大震災直後の「いっしょに歩こう！プロジェクト」からの働きを続ける当プロジェクトも授与になりました。感謝状は後日郵送されます。
11日から14日まで東北研修をされたウイリアムス神学館館長の黒田裕司祭から、長文の感謝状が届きました。

「震災証言集」を手になれた方々から、御礼の言葉をいただきました。1つだけご本人の了解を得て一部分ご紹介いたします。「改めてこの10年を振り返り、次のステップを考える大切な機会となりました。感謝申し上げます」

す。まだまだ復興とは言い難い側面も多々あるかと思いますが、東北教区の皆さまのお働きに少しでもお役に立てればと常に思っております。コロナが完全に落ち着いたら、うかがいたいと思います。」
(司祭 長谷川清純)

1月逝去者記念聖餐式

1月4日(火) 午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 李 贊熙 司祭

執事 ヨハネ福島 政美

2003年1月1日逝去
執事 アナシウス 佐々木 康一郎

2020年1月3日逝去
司祭 サムエル 秋山 久之

2020年1月7日逝去
Mrs. Waller

1939年1月9日逝去
司祭 ステパノ 宮城 俊彦

1995年1月13日逝去
司祭 ペテロ 細貝 岩夫

1985年1月17日逝去
司祭 E.R.Harrison

1937年1月19日逝去
司祭 Charles H.Evans

1955年1月20日逝去
司祭 アンデレ 青木 伊八

1966年1月31日逝去